

2020年3月31日

迅速ウイルス検出機器 GeneSoC(ジーンソック)を 全国16カ所の医療機関に導入しました

経済産業省は、新型コロナウイルスの検出を迅速に行う検査機器を、全国16カ所(別紙参照)の医療機関に配備しました。3月10日に決定された予備費を活用し、現場での実効性や操作性の確認を行い、実利用の加速化につなげてまいります。

1. 背景

3月10日に取りまとめられた「新型コロナウイルス感染症に関する緊急対応策―第2弾―」(新型コロナウイルス感染症対策本部、議長：内閣総理大臣)において、PCR検査の時間短縮を可能とする迅速ウイルス検出機器の検査精度等に関する実証を行い、本年3月中の利用開始を目指すこととされています。

2. 迅速ウイルス検出機器GeneSoC(ジーンソック)について

国立研究開発法人産業技術総合研究所及び杏林製薬株式会社が共同開発したGeneSoCは、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)に対して、従来のPCRに近い検出感度を維持しつつ、迅速性が最大の利点であり、一人の患者を診断するに当たり、検体採取から結果判定まで、1時間以内(前処理30分弱+検査時間15分弱)で完了します。従来のPCRのように一度に大量の検体を検査することには向いていませんが、少量の検体を迅速に診断することが求められるような場面では、GeneSoCの能力が大いに活かされるものと期待されます。なお、GeneSoCは、3月18日より保険適用対象となり、行政検査等に用いる遺伝子検査方法として、厚生労働省から示されています。

3. 迅速ウイルス検出機器導入実証事業について

経済産業省は、3月10日に閣議決定された予備費を活用して、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)に補助を行い、新型コロナウイルスの検査体制が整備されている16カ所の医療機関に対して、GeneSoCを配備しました。これらの医療現場において、GeneSoCの実効性や操作性の確認も合わせて行い、今後、実利用の加速化を期待しています。

なお、杏林製薬株式会社は、GeneSoCがより多くの医療機関等で活用されるよう、4月から増産する見込みです。

(本発表資料のお問合せ先)

商務・サービスグループ生物化学産業課長 田中

担当者：大石、吉田

電話：03-3501-1511(内線 3741)

03-3501-8625(直通)

03-3501-0197(FAX)

■GeneSoCが配備された医療機関(16機関)(※五十音順)

愛知医科大学 感染症科・感染制御部
杏林大学医学部附属病院
近畿大学病院
国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院
埼玉医科大学
札幌医科大学附属病院
東海大学医学部
東邦大学医学部
東北大学病院
独立行政法人国立機構仙台医療センター
鳥取大学医学部附属病院
長崎大学病院
奈良県立医科大学
藤田医科大学病院
山形大学医学部附属病院
山梨大学医学部附属病院

■GeneSoC(ジーンソック)の概要

マイクロ流路型遺伝子定量装置



GeneSoC® 本体

検出ユニット

- 1 GeneSoC®は、リアルタイムPCR法に基づく遺伝子定量装置です。
- 2 マイクロ流路型サーマルサイクル技術により、短時間(5-15分*)で核酸を定量できます。
*試料量により異なります
- 3 1試料につき、3波長での蛍光検出が可能です。
- 4 本体と検出ユニットから構成され、検出ユニットは最大4台まで増設可能です。
- 5 検出ユニットは独立して制御され、測定中に別ユニットを用いて検査を開始できます。

杏林製薬株式会社